

彗星課月報

Monthly Report of the Comet Section, December, 2006

課長 関 勉 T. Seki

幹事 松本敏一 T. Matsumoto 幹事 佐藤裕久 H. Sato

12月の状況 (佐藤)

C/2006 P1 (McNaught) (写真 a, b)

C/2006 P1 が 12 月 11 日の SWAN 画像から見えだした。12 月 23 日、筆者から OAA 彗星メーリングリスト(以下 oaa-comet ML)向けに出している「Recent SWAN image update」に「... 12 月 11 日から見えていた C/2006 P1 がかなり明るくなっています。光度は 6.0-6.5 等。どちからかというと 6.0 等に近いと思います。」と、1 月 4 日、「...SWAN の最新画像が更新されました。(最新 12 月 31 日) C/2006 P1 は 4 等台前半の明るさです。2004 年 5 月 19 日の画像と比較したものが次の画像です。C/2001 Q4 の眼視光度はこの頃 4.1-4.4 等でした。」とコメントした。(写真 a)

SWAN 画像による光度は地上での光度観測とは単純に比較できないが、地上でも個人差として 1 等ほどの違いが出ることを考慮すれば目安として利用することは可能と思われる。

12 月 29.28 日 UT、ノルウェーの Bjorn H. Granslo が 10 cm 屈折望遠鏡で、全光度 3.9 等、Dia. 1.5 (高度 3.5°、航海薄明)と眼視観測を行っている。

12 月 31 日、埼玉県上尾市の門田健一氏から oaa-comet ML に「黎明の C/2006 P1」と題した C/2006 P1 の観測報告と画像が報告された。「黎明の超低空で、C/2006 P1 を捉えました。2006 Dec. 30.885 UT に、CCD 全光度 3.8 等、コマ視直径 1.7 分角でした。尾は判別できません。機材は、25cmF5 反射+CCD(ノーフィルター)で、露出時間は 0.3 秒でした。9 フレームをコンポジットしましたが、恒星は 1 つだけで、位置測定は無理でした。雲の通過のため、光度には誤差が見込まれます。左上が彗星で、右下が Sct(3.85 等)で、左下が地平方向。幾重にも見られる縞模様は雲です。」(写真 b)

1 月 12 日から 15 日にかけては SOHO/LASCO C3 の画像に雄大な姿が見られることだろう。

C/2006 M4 (SWAN)

12 月に入ってから観測は極端に落ちた。暗く拡散が進んだためだろう。

しかし、関課長は報告の中で「最近南下しながら暗くなりましたが核は確りしてまだ 20cm で見えています。少し尾も見えています。」とコメントしている。

国内彗星観測者メーリングリスト(comet-obs)によれば、山口県の吉本勝己氏が 20×10cm 双眼鏡で 12 月 2.45 日 UT に、全光度 8.9 等、Dia. 5、DC 4; 10.40 日に、全光度 9.4 等、Dia. 6、DC 4/; 15.41 日に、全光度 9.7 等、Dia. 4、DC 4 と眼視観測したほか、海外では、12 月 20.78 日 UT、スペインの Juan Jose González Suarez が、25×10cm 双眼鏡で、全光度 9.5 等、Dia. 3、DC 4、Tail 0.1°、p.a.15° と観測し、12 月 24.22 日 UT、ハワイの Mike Linnolt が、20cm 反射×150 で、全光度 10.4 等、Dia. 2、DC 5 と観測した。

報告された C/2006 M4 (SWAN) の眼視観測は次のとおり。

| | 2006 | UT | m1 | Dia | DC | Tail | p.a. | Trans. | Seeing | Instru. | Observer | Note |
|------|------|-------|------|-----|----|------|------|--------|--------|----------|----------|------|
| Dec. | | 4.39 | 9.7 | 5 | 6 | - | - | - | - | 60×20cmR | 関 勉 | |
| | | 10.43 | 10.1 | 6 | 4 | - | - | - | - | 60×20cmR | " | |
| | | 23.37 | 9.4 | 5 | 3 | - | - | - | - | 36×40cmL | 吉田誠一 | |

4P/Faye (写真c)

12月はだいぶ暗くなって観測報告も少なくなった。

国内では、山口県の吉本勝己氏が、25cm反射×46で、12月10.42日UT、全光度10.9等、Dia. 2.5、DC 5; 12月15.45日、全光度10.7等、Dia. 2.2、DC 5と観測した。

海外では、スペインのJuan Jose González Suarezは、12月21.82日UT、20 cm SCT × 77で、全光度11.1等、Dia. 2、DC 5と観測し、アルゼンチンのWalter Ruben Robledoは、12月26.14日UT、20cm反射×57で、全光度10.8等、Dia. 2と観測した。

報告された4P/Fayeの眼視観測は次のとおり。

| | 2006 | UT | m1 | Dia | DC | Tail | p.a. | Trans. | Seeing | Instru. | Observer | Note |
|------|------|-------|------|-----|----|------|------|--------|--------|----------|----------|------|
| Dec. | | 22.58 | 11.1 | 2.5 | 6 | - | - | - | - | 60×20cmR | 関 勉 | |
| | | 23.40 | 10.7 | 2.8 | 6 | - | - | - | - | 75×40cmL | 吉田誠一 | |

C/2006 L1 (Garradd)

12月24日、関課長から12月22日の観測について oaa-comet MLに「...非常に拡散して見えました。天頂北よりでしたから観測の条件は最高で、かすかに見えました。位置は後でお送りします。モーションが速いので、先日は時間的なズレで60cmの視野外でした。尾は無いように見えました。...」と眼視観測ともに報告があった。

他に国内では、山口県の吉本勝己氏が25cm反射×46で、12月10.44日UTに、全光度10.2等、Dia. 3.8、DC 2/; 12月15.51日、全光度10.2等、Dia. 4.0、DC 2/と観測し、海外では、スペインのJuan Jose González Suarezが12月20.80日UT、25×10cm双眼鏡で、全光度9.2等、Dia. 6、DC 3と観測し、12月24.31日UT、ハワイのMike Linnoltが、20cm反射×150で、全光度11.5等、Dia. 1.5、DC 3と観測した。

報告されたC/2006 L1 (Garradd)の眼視観測は次のとおり。

| | 2006 | UT | m1 | Dia | DC | Tail | p.a. | Trans. | Seeing | Instru. | Observer | Note |
|------|------|-------|------|-----|----|------|------|--------|--------|----------|----------|------|
| Dec. | | 12.56 | 10.3 | 2 | 3 | - | - | 5/5 | 8/10 | 25×10cmB | 佐藤裕久 | |
| | | 22.55 | 11.5 | 5 | 3 | - | - | 4/5 | 3/4 | 60×20cmR | 関 勉 | |

発見・検出彗星は次のとおり。

C/2006 VZ₁₃ (LINEAR)

11月13.13日UT、LINEAR サーベイによって外見上小惑星状の天体が発見された。12月1.1日及び2.1日UT、C. W. Hergenrother がアリゾナ大学の1.54-m Kuiper 望遠鏡で得た画像から彗星状であることがわかった。(IAUC 8781, 2006 Dec. 4)

C/2006 X1 (LINEAR)

12月11.12日UT、LINEAR サーベイによって発見され、NEOCP ウェブページに掲載後、他のCCD観測者によって彗星であることが確認された。(IAUC 8783, 2006 Dec. 12)

C/2006 YC (Catalina-Christensen)

12月16.42日UT、Catalina スカイサーベイ(0.68-m Schmidt 望遠鏡、観測者A. R. Gibbs)

が外見上小惑星状天体として報告され、ほぼ同時に、Mt. Lemmon サーベイ(1.5-m 反射)の E. J. Christensen によって6 のコマと p.a. 250 °に 10 の尾がある彗星として発見された。12月17日、K. E. Smalley が MPEC 2006-Y15 で 2006 YC と符号をつけた時、不幸にも Christensen の彗星状であるという報告に気づかなかった。(IAUC 8785, 2006 Dec. 20)

もし気づいていれば C/2006 Y1 となったことだろう。

P/1999 DN3 = P/2006 Y1 (Korlevic-Juric)

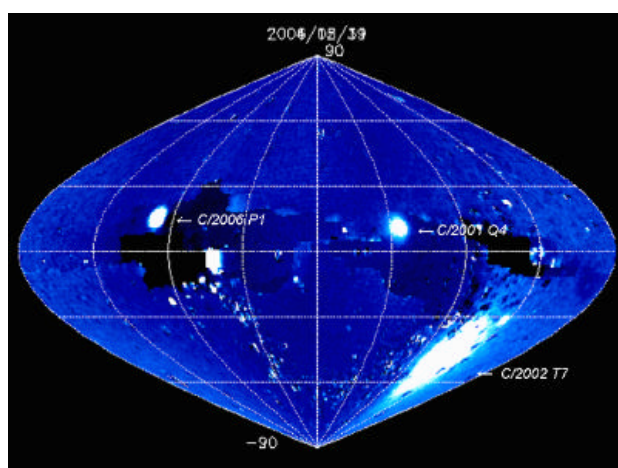
12月16.4日 UT、E. J. Christensen は、Mt. Lemmon の 1.5-m 反射望遠鏡で P/1999 DN3 を検出した。CCD 露出 60 秒の画像では、5 のコマと p.a. 270 °に 15 の尾が見えた。

MPC 54168 の予報に対し T = -2.0 day である。(IAUC 8786, 2006 Dec. 20)

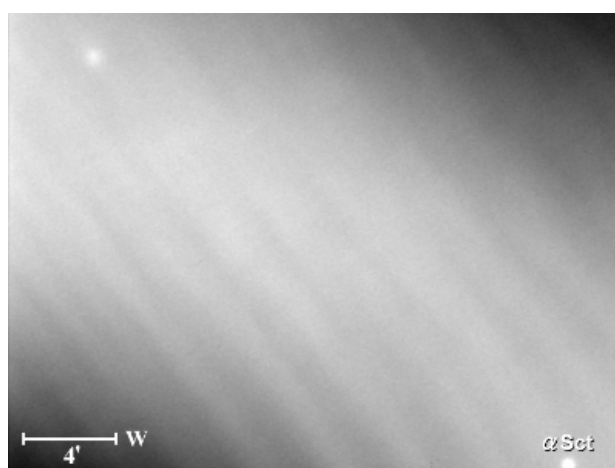
C/2006 Y2 (Gibbs)

12月26.49日 UT、A. R. Gibbs は、Catalina スカイサーベイのコース上に彗星を発見した。暫定放物線軌道要素が計算されたが短周期彗星である可能性が高い。(IAUC 8787, 2006 Dec. 28)

その他比較的明るい彗星は、29P/Schwassmann-Wachmann 1 (写真 d)、などであった。



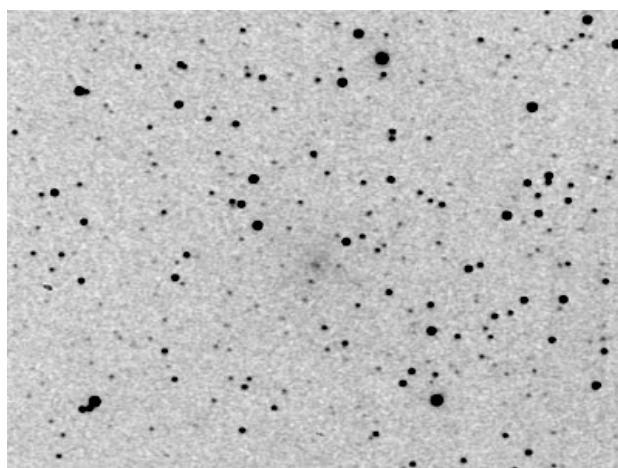
(写真 a) C/2006 P1 (McNaught) 2006,12,31
2004,05,19 の C/2001 Q4 との比較のため画像合成
© ESA and NASA



(写真 b) C/2006 P1 (McNaught) 2006,12,30
Dec. 30.885 UT exp.0.3s x9 25cm L + CCD
埼玉県上尾市 門田健一氏



(写真 c) 4P/Faye 2006,12,20
21h 25.0m ~ 49.5m (JST) exp.120s x7 Sky90 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏



(写真 d) 29P/Schwassmann-Wachmann 1 2006,12,20
22h 20.0m ~ 29.5m (JST) exp.120s x4 Sky90 + CCD
三重県伊賀市上野 田中利彦氏